



® 平成 29 年 7 月 19 日 (水)
No. 14489 1部370円 (税込み)

発行所

一般財団法人 経済産業調査会
東京都中央区銀座2-8-9 (木挽館銀座ビル)
郵便番号 104-0061
[電話] 03-3535-3052 [FAX] 03-3567-4671

近畿本部 〒540-0012 大阪市中央区谷町1-7-4
(MF天満橋ビル8階) [電話] 06-6941-8971

経済産業調査会ポータルサイト <http://www.chosakai.or.jp/>

特許ニュースは

- 知的財産中心の法律、判決、行政および技術開発、技術予測等の専門情報紙です。

定期購読料 1カ年61,560円 6カ月32,400円
(税込み・配送料実費)

本紙内容の全部又は一部の無断複写・複製・転載及び
入力を禁じます(著作権法上の例外を除きます)。

目次

☆地域における観光と知的財産の関連性 (25) … (1)

☆特許庁人事異動…………… (11)

地域における観光と知的財産の関連性 (25)

東京理科大学専門職大学院 (MIP)

教授 生越 由美

第5章 地域における事例

22. 福島県会津若松市 (特許権、商標権)

江戸時代に会津藩の城下町として盛え、今も「若松城 (鶴ヶ城)」や「白虎隊」などの歴史上の遺跡などで有名な会津若松市を検討する。この地には「こづゆ (郷土料理)」などの文化的な特色があり、「赤べこ」や「会津塗」などの伝統工芸などにより、多くの観光客を集めている。

(1) 歴史¹

会津若松市にある「大塚山古墳」は4世紀後半に造営された。この古墳から出土品された「三角縁神獣鏡」は畿内で鑄造されたものと同一と推定されている。

1384 (至徳元) 年に蘆名直盛 (あしな なおもり) により「黒川城 (若松城)」が築城されたことが都市としての始まりである。城下町と

特許業務法人



和国際特許事務所

Takewa international patent office

～人と技術・技術と社会を結ぶパートナー～

私たちは知的財産権及び技術のプロとして全力でお客様をサポートします～

代表 弁理士 篁 悟

パートナー 弁理士 垣内 順一郎
弁理士 久保山 典子
弁理士 植松 里紗子

パートナー 弁理士 服部 秀一
弁理士 小牧 哲也
弁理士 影井 俊次

パートナー 弁理士 宗像 孝志
弁理士 小田木 美奈子
弁理士 中村 和夫

顧問 弁理士 高見 和明

〒105-0003 東京都港区西新橋3丁目13番3号 ユニゾ西新橋三丁目ビル 2階
TEL: 03-5776-2700 FAX: 03-5776-2711 Email: take@take-pat.com URL: <http://www.take-pat.com/>
群馬支所 〒370-2213 群馬県甘楽郡甘楽町白倉61番地1
TEL: 0120-966-726 facebook: @takepatgunma

しての「黒川」は、戦国大名蘆名の拠点として、奥州最大の都市として発展を遂げた。1589(天正17)年、伊達政宗が蘆名を滅ぼし、黒川を本拠地とした。

しかしながら、翌1590(天正18)年には豊臣秀吉が伊達政宗からこの地を取り上げ、代わりに蒲生氏郷(がもう うじさと)が入封した。氏郷は、町の名を「黒川」から「若松」へ改め、城を改築した。7層の天守(現存する5層の復元天守は寛永年間に改築されたものが元)を有するこの城は、氏郷の幼名と蒲生家の舞鶴の家紋にちなみ、「鶴ヶ城」と名付けられた。

城下町の構築に尽力し、氏郷の旧領の日野、松阪から商人を招聘した。定期的に市を開設し、楽市楽座も導入し、漆器などの手工業も奨励した。これらの施策が江戸時代の「会津藩」の発展の礎を築いたと言われる。

氏郷の死後、上杉景勝が入封したが、関ヶ原の戦い後は、蒲生秀行、加藤嘉明などの領主を経て、1643(寛永20)年に徳川秀忠の子である保科正之が入封した。以後、会津松平家の支配下となり、「会津藩」の城下町として栄えた。

幕末の1862(文久2)年、会津藩主の松平容保は京都守護職に任ぜられ、尊王攘夷派志士の取り締まりや京都の治安維持を担った。このことが長州藩を筆頭とする倒幕派(後の明治政府軍)の恨みを買うこととなった。

1868(慶応4)年に「戊辰戦争」が勃発すると、会津藩は攻撃の対象とされた(会津戦争)。白虎隊の自刃などの悲劇が起こり、城下町の大半が壊滅した。

戊辰戦争後は明治政府の直轄地となり、民政局が設置された。翌1869(慶応5)年に民政局が廃止されて「若松県」が設置された。県庁は、最初は大町の融通寺に置かれたが、後日、旧若松城本丸に置かれた。戊辰戦争による地域間のわだかまりは2017年現在の日本でも残っていると思われる。

1871(明治4)年の全国的な廃藩置県により、引き続き若松県が設置され、会津若松は若松県の県庁所在地となった。しかし、1876(明治9)年に、若松県、福島県(1876年以前)、磐前県の3県が合併されて現在の「福島県」が誕生した。

1899年、当時の「若松町」が福島県で初の市制を施行して「若松市」となった。この年の人口は30,488人であった。1890年に私立会津中学校が開校し、現在の福島県立会津高等学校に至る。1899(明治32)年、岩越線(現在の磐越西線)が若松駅(現在の会津若松駅)まで開通した。

1932(昭和7)年に「御薬園(会津松平氏庭園)」、1934(昭和9)年には「若松城址」が国の史跡に指定された。その後も周辺町村の編入などを繰り返し、1955(昭和30)年の7村編入時に「会津若松市」に変更して現在に至る。

1961(昭和36)年には人口が10万人を突破し、1965(昭和40)年には「鶴ヶ城」の天守閣再建工事が落成した。1989(平成元)年には会津若松市観光公社が設立され、観光業も発展していった。現在の会津若松市の人口は124,062人である(2017年6月1日)。

(2) 地理

会津若松市がある「会津盆地」は、「会津平(あいづだいら)」とも呼ばれている。この会津盆地から北の「飯豊山地」を越えると山形県の「米沢(米沢盆地)」、東は猪苗代を経て奥羽山脈を越えると中通り地方の「郡山(郡山盆地)」、西には野沢などを経て「越後山脈」を越えると新潟県下越地方の「新潟市(越後平野)」が位置する。

会津盆地の南には「会津高原」と呼ばれる山間地が広がっており、尾瀬などの観光地が点在している。市域の西側を「阿賀川」が流れているほか、市の東側は「猪苗代湖」に面している。

この地域は、内陸であるが奥羽山脈以西に位置しているため、水系は「日本海側」であり、

図1：会津若松市

